

第6回 亀山市総合計画審議会 議事録

開催日時	令和7年11月27日（火） 9：15～11：30
開催場所	亀山市役所本庁舎 3階 大会議室
議事項目	<p>1. 会長あいさつ</p> <p>2. 第3次総合計画の総括審議 (1) 基本構想について (2) 前期基本計画について</p> <p>3. その他</p>
議 事	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 委員15名中12名の出席（山川委員、小林委員、上谷委員が欠席）により、会議が成立している旨を報告する。 配布した事項書に沿って進めていく。 <p>1. 会長あいさつ</p> <p>【会長よりあいさつ】</p> <ul style="list-style-type: none"> インフルエンザが流行しているが、何とか本日は過半数以上のメンバーが集まったということで、進めさせていただく。本来であれば、本日である程度まとめ上げて、次回答申ということだったが、委員からたくさんの意見をいただいたので、本日は市からの回答も含めて、委員からのご意見を中心に意見交換したい。ご協力よろしく願います。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 審議会規則第3条1項の規定に基づき、石阪会長に議長をお願いする。 <p>(会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本会議は会議の傍聴を認めることとしているが、異議はないか。 <p>(各委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 異議なし。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本日、傍聴者は無し。 <p>2. 第3総合計画の総括審議</p> <p>(1) 基本構想について</p> <p>(会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本日は本来総括ということで、重点プロジェクトも含めて、委員から意見をいただく予定でしたが、意見が非常に多かったため、基本構想、基本計画全体について委員からの意見を確認、共有する。市からの回答も含めて見ていただき、意見があればそこで出させていただくという形に特化して進めていく。重点プロジェクト及び答申は、次回にする。 まずは、書面で提出いただいた意見について、事務局に説明を求める。 <p>【事務局より資料説明】</p> <p>(会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市からの回答、それにより修正しているところもある。また、具体的なものについては、構想ではなく、基本計画や実施計画に書くというものもある。具体的にこうすべきという意見については、基本計画より実施計画、そのさらに下の計画に書き込むというような形になるのではないかと思う。自身の意見を見ながら、補足やその回答に

に対する意見があれば挙手を求める。

(委員)

- 私の意見は、地域まちづくり協議会から意見をいただいたので、その意見も含んでいる。

(会長)

- ダッシュボードをどうしてここに持ってきたかという意見が出ているが、これはある意味で亀山市としての強み、弱み、うまくいっているところと、いけないところが、主観的、客観的データに基づき出ているので、メリハリをつけて、その後の指標につなげていくための導入として使っているという意味合いだと思う。これ自体をいい悪いと判断するものではない。力点をどこに置かだと思う。

(委員)

- リニアは最速2037年とされているが、現実的には難しいと思われるため、第3次総合計画ではなく、第4次総合計画で記載する話だと思っている。

(会長)

- リニアについて、2037年としているエビデンスですが、どうですか。

(事務局)

- 国が毎年策定している骨太の方針で、最速2037年を目指すという記載があるので、市としてもここを目指していくという形になる。ただ、名古屋、品川間の工事の遅れも報道もされているので、実際の施策としては、県とともに、リニアが開業した場合のまちづくりの方向性について整理していくとしている。今後の概略ルートや駅位置の決定に備えて準備をしていきたいという考え方である。

(会長)

- 具体的な時期は、想定上遅れることも想定されるが、計画の中に書き込まないと、駅の整備や、周辺の交通等の検討が何もできないということもある。リニアが通るにあたって、市としても準備をしていくことが必要ということだと思う。

(委員)

- 市民の盛り上がりを続けるためにも必要だと思う。

(委員)

- 具体的に、資源の投入をしていくのかどうか。ある程度効果を見据えた上での資源投入でないと意味がないと思う。

(事務局)

- リニアについては、現在はリニア周辺のまちづくりに対する基金として積み立てを行っている。駅が亀山市内にできるということになるが、これは三重県全体への入口ということになるので、三重県駅としてこれをどう生かしていくか、周辺のまちづくりをどのようにしていくかについては、県内の全市町含めて、検討会を県で立ち上げて議論いただいております。市としてはそこに参画して一緒に考えるというところであり、これまで投資したものが無駄になるということではないと考えている。具体的には、駅位置や概略ルートが建設主体から発表されないと進められないが、こういったものが来た時の都市計画的な方法等の事前検討を進めていく必要があると考えている。

(会長)

- 駅位置が決まらないと、駅前開発も含めて何もできないので、今は基金を積み立てている状態ということか。

(事務局)

- 駅自体の整備はJRが行うが、周辺の整備は自治体が行うことになっている、現在は県が主導で、市はそれに合わせて行うことになると考えている。

(会長)

- 基本構想への書き込み方としてはおそらくこの程度かと思う。

(委員)

- 現実的には、第3次総合計画の8年で、リニアに資金を使わなくていいのではないかと思う。

(会長)

- いただいているご意見のボリュームが前期基本計画の方がかなり多いので、前期基本計画の方に進めたい。

(2) 前期基本計画について

【事務局より資料説明】

(会長)

- 亀山市としての発信力の弱さ、SNSの発信や、地域ブランドをもっとPRできる場が欲しいという意見など、亀山市としてもう少し何か発信ができないのかというあたりが大きな課題として挙げられている。委員からの案として、アンテナショップのようなものを作る、企業がそれに参画をして亀山ブランドを創出してもらったらどうかという意見があった。
- 農業については、一つは法人化を目指すべきだという意見、個人ではなかなか成り立たないので、法人としてそれを育てていく仕組みを作ってはどうかという意見。それから遊休農地や耕作放棄地の利活用も大きな課題である。利活用については、大規模太陽光発電の設置というような方向に行かないで欲しい、規制すべきという意見が多い。どうやって活用するのかということについては、亀山市としてのビジョンが必要になると思う。
- 学校教育も含めて子ども子育てに関する意見も多かった。給食については、いわゆる弁当みたいなものではなく、自校方式等でやって欲しいという意見があり、内容も反映していただいた。それから子どもの居場所をどう確保していくか、学校ではない場所にどうやって居場所を作るか。これについては新たな書き込みまではいかないが、例えば公園で遊ぶことも大変な時代になっているので、子どもが安心して遊べる、交流できる場所をどのように確保していくかということも課題である。これは恐らく実施計画等でかなり書き込まれるのではないかと思う。
- 学校教育で難しいところは、安心・安全面の話や、子どもの学びをどうやって確保していくかということだが、学力より子どもに生き生きと過ごしてもらいたいという思いが強いようだ。他の自治体では学力向上と書いていることが多いが、亀山市ではそのような表記はしていない。子どもがのびのびと、しかも亀山を誇りに思って生活してもらいたいという思いが強いようだ。ただインフラ面での偏りについて、指摘がされている。
- 自然、環境、生物多様性の問題については、指標も修正していただいた。修正をした指標では、自然を守るような方向につながっているか。

(委員)

- 今回の指標の方が自然を維持していく、守っていくという視点が強く出ていて良いと思う。

(会長)

- 教育という面でいうと、分断されてしまうところもあるので、環境を守ることと教育をしていくというところの両方に書き込みがあってもいいと思う。
- 健康については、亀山市はかなり力を入れているところであり、緑の健都としている

が、指標の問題であったり、アプリ等のユーザーを増やしたり、広報やPRといった課題がある。

- 民生・児童委員については指標を一月あたりの活動日数に修正している。
- スポーツをはじめ健康に関することは、亀山市はかなり力を入れているが、マラソン大会の復活については、別のところで議論することになると思う。
- 部活動の地域展開については、令和9年以降にこういった努力をしていくということになる。少子化の中で、学校の部活動から地域に展開していくという動きが出てきている。書き込みとして変更はないが、そういったことは伝わってくる。
- 防災、減災、草刈といったところは、特に大きな変更はなさそうである。
- 地域まちづくり協議会や自治会に関する意見や要望が多く出ている。

(委員)

- 今までは各地域の個別課題に対応するための地域まちづくり協議会という位置づけであったと思うが、最近は大きな政策課題について、その実施のための手段や方法として地域まちづくり協議会を想定するようになってきている。このため、地域まちづくり協議会の組織の位置づけやあり方について、何か検討をしていただいた方がいいと思う。

(会長)

- 自治会は任意団体、地域まちづくり協議会は市の組織という位置づけか。市の組織であれば、地域まちづくり協議会と市は一体であり、地域まちづくり協議会を通じて市がやるという書き込みにすべきだが、任意団体という事になると、地域まちづくり協議会にお願いする、地域まちづくり協議会を支援していくという表現になってしまう。

(委員)

- 指定管理者制度の中に、地域まちづくり協議会が取り組むことも含めて、はっきり書き込むことも必要だと思う。亀山市がそういった施策を進めることが今後出てくると思う。

(会長)

- 今後は地域まちづくり協議会に、ある意味で担い手になってもらい、市の施策を進めていくという事が出てくるということか。

(委員)

- 現在は、コミュニティセンターの建物の指定管理業務の中で雇った職員に、地域まちづくり協議会の仕事を充当してやっている状況なので、もう少しそのあたりの支援をして欲しい。

(委員)

- 事業計画は各地域まちづくり協議会で作り、それを市に提出して承認をもらわないと補助金が出ないのではないか。

(委員)

- 地域まちづくり協議会は条例に基づき、年度ごとの事業計画を市に提出して、交付金を受け取るという形になっている。

(会長)

- 市としては地域まちづくり協議会をどのように考えているのか。そのことによって書き込み方が変わってくると思う。例えば市とは別の団体とすると、地域まちづくり協議会に対してお願いする、支援するという書き込みになる。一方で市の組織ということであれば、地域まちづくり協議会に積極的にやってもらうという書き方になると思う。このあたりの整理はどうなのか。

(事務局)

- 地域まちづくり協議会については、地域まちづくり協議会条例の中で、地域課題の解決に取り組む自治組織として位置づけている。

(会長)

- 自治会と同じような任意団体として考えてよいのか。

(委員)

- 自治会より少し広く、構成する団体も多い。

(会長)

- 亀山市の場合はなかなか難しい。そうであれば、書き方としては、「お願いする」、「支援する」、「地域の中で中心的になっていただく」となる。

(委員)

- 地域の課題解決という形で地域に収まっていたが、地域に要請されることが多くなってきているので、市の政策を担うような形での位置づけが必要になっていると思う。

(委員)

- 地域課題が、地域だけでは解決できないような問題が多くなってきているということだと思う。

(会長)

- 地域まちづくり協議会だけで何かすることが難しくなっている。担い手の問題、お金の問題など、今後、再編なども必要なのだろうか。

(委員)

- 少子高齢化の影響が大きい。

(委員)

- 現在の地域まちづくり協議会の中では、自治会のメンバーがそれなりの役割を果たしてきているケースが多い。一方で地域まちづくり協議会は行政の指導を受けるということで、自治会本来の任意の活動が制限されることも懸念される。地域まちづくり協議会があり、自治会連合会もあるが、自治会連合会は担い手不足となっている。地域まちづくり協議会と自治会連合会が、どのように付き合っていくのかを整理する段階かと思う。

(石阪会長)

- 「わくわくしない」といった意見があったが、これは若い人がNPOを立ち上げるなど、さまざまな活動をしてきたと思うが、それが地域の自治会や地域まちづくり協議会と連携できていないということも、課題としてあるのだろうか。

(委員)

- 若い人からすると、自分たちがやりたいと思うことがなかなか形にならない。地域まちづくり協議会の方からすると、若い人との接点が少ないと思う。地区により地域まちづくり協議会の考えややり方が全然違う。例えば、飲食禁止のルールがあってできないと言われたりする。コミュニティセンターは市の持ち物という事なので市にかけあったが、それは違うというようなことがよくあった。今の話を聞いていて、それは市から言う事ではないという事がわかった、そういうことが分からない中で、地域で活動するにはどうしたらいいのかがわからない。住んでいる場所と活動する場所が違う場合、あなたはこっちの地区だから、こっちでやりなさいということもある。

(委員)

- 2000年に「きらめき亀山(かめさん)」という、自分たちがやりたいことのグループを作って、それでさまざまな活動団体ができた。ボランティア、NPO、外国籍

の方と友達になりたい、アーケードに昔のまちなみを描きたいといったグループがあった。商店街では七夕を復活させたい、活性化する会など、さまざまな会が立ち上がった。この時期にさまざまな団体ができ、それが今、年齢を重ねて、残っている団体が「みらい」などの自分たちの場で活動している。それが今狭間になっていて、若い子たちが5、6人集まって子育てについて何かしたいというグループもできているが、そのノウハウ等が伝わっていない。地域が違っていいが、亀山全体で、ここを盛り上げたいという活動があってもよい。新玉委員の活動もそういう団体から起こってきたと思う。

(会長)

- 地域まちづくり協議会や自治会と、もう一つは、いわゆるNPOや地域を超えて集まるような若い人たちの団体などがうまく連携できていない。

(委員)

- 市が始めているのが、「みらい」で毎月15日に「ぷらっとカフェ15」として集まる場をつくっている。グループはできていて、色々と話もでき、何かやろうとするが、色々と行き違いがあったりもする。

(委員)

- やりたいと思うことがあっても、どうせダメだとか、無理だと若い人が思ってしまうと、つながっていかない。

(会長)

- 市の政策の話に戻すと、そういう挑戦する人をコーディネートする役割を、本来は市が担うべきだと思う。
- 現状は地域間の差、あるいは世代間の差があり、それぞれの地域団体のやることと、自己実現のためにやりたいことが、うまく接合できていないことが、亀山の課題でもあると思う。このあたりをどうやってコーディネートするかが大事である。そこには民間の企業や別のNPO等が入ってもよいと思う。
- 120ページに多様な主体との連携がされるよう、組織横断的な連携や関係機関との情報共有を強化するという項目を入れていただいた。企業や大学との連携だけでなく、組織横断的にやりましょうという提案がされているので、そこに期待をかけていただきたい。そういうところがないと前に行かない状況も見えているため、これを最初から出しておいてもらうことは必要である。これは重点プロジェクトなどのタイトルに「つながり」や「連携」などが入ってくると思う。

(委員)

- さまざまな団体による新たな連携体を作ってもいいと思う。最近の高齢者はどちらかということ、サービスさえ受けられれば地域の方がいなくてもいいという。そうした中で、地域の役割は何かという議論も必要になっている。そういった話ができる場を構えてもらい、そこで役割分担をどうしていくかを考えながら、それぞれの組織がその流れの中で動いていくというような議論を先にしていただけるように書いてもらってあるので、そのところはありがたいと思っている。

(会長)

- さまざまな団体を集めて、地域のことについて話し合ったり、情報共有したりする場はあるのか。

(事務局)

- 常設でそういう組織体を持っているかという点。ただ、先ほど皆さんから言っていたように、そういった課題は認識している。

(会長)

- 今回の計画の一番のポイントは、そこだと思っている。亀山市では、今まではうまく

やってきたところもあるが、それぞれの内部にさまざまな問題を抱えてきて、それがうまくつながっていないというところが大きな課題なのかもしれない。

(委員)

- 「みらい」には、かつては年度契約の人が2、3人だけであり、なかなか物事が進まなかった。しかし最近では職員も増え、さまざまな人材も発掘してもらっているので、これからエネルギーを発揮して、いろいろな人を結びつけていき、やがてそれが形になり事業になる。それが亀山の将来につながっていくので、今はその段階ということだと思う。

(会長)

- さまざまな意見が出たが、亀山市の課題が見えてきたような気もするので、今回の計画を通じて、そのあたりの書き込みがされ、重点プロジェクトなどの大きなテーマのところに「つながり」や「連携」などが入ってくれば、亀山市としても、今後どうしていくのかを考えざるを得なくなる。
- 全体を通じて回答をいただいたが、意見や質問はないか。

(委員)

- 「どうせ無駄だ」「だから無理」といった意見が引かかった。
- 地域ではあいさつが大事だと思う。私も地域を走りながら、小さい子にも老人にも、「おはようございます」と声をかけるが、老若男女、何も返事をしない人がかなりいる。あいさつや、ありがとうを言うことから、地域が盛り上がると思う。
- 市の回答として、「検討します」という回答が多くあるが、「検討」はやらないのと一緒にである。民間企業ではそう言われている。

(委員)

- この回答は各担当部署が一生懸命に考えてくれたと思うが、その中で分野を横断してなど回答してもらっているが、本当にこの実施計画や下位計画を作る際に、この問題はこの部署とこの部署とこの部署が連携しなければいけないということはある程度ははっきりと考えながらやってもらうべきだと思う。移住と農業や、移住と産業と観光など、連携したらうまくいくことがたくさんあると思うので、ぜひ下位計画には連携する部署をはっきりと記載して欲しい。

(会長)

- 計画の中にそういった部署を書き込む自治体もある。亀山市は書いていない。

(委員)

- 職員の定員適正化計画が424人というのはよくわからないが、経験者採用のような形は実施しているのか。

(委員)

- 例えばITスキルに長けた人、最近だとアスリート採用をやっている自治体もある。市のPRになるような人をあえて採用するなど、戦略的に人材を確保している自治体が増えているので、普通に試験を受けて入る人ではなく、専門家などをある程度採用するというのも一つの考え方としてあり得るということだと思う。

(委員)

- 今話していても、人の力がすごく大事と言っているので、政策の大綱「6. 多様な連携と交流によるまちの活性化」が政策の大綱1に来るといいと思う。

(会長)

- 資料2についてはどうか。こちらも修正していただいたものも含めて入っているということか、それともこれから修正するのか。

(事務局)

- 資料2については、成果資料、関連指標の考え方を資料として提示させていただき、

編み掛けしているところは、意見も踏まえて修正した箇所である。数字も、前回の意見を反映させていただいた。

(会長)

- 限られた時間の中で難しかったかもしれないが、一通り皆さんにご意見をいただき、市からの回答を得たということで一旦、本日の会議をもってこの議論を取りまとめさせていただきたいと思う。次回は答申案の作成に入っていくが、本日触れることができなかった重点プロジェクトは次回お示しいただくことになる。

(事務局)

- 重点プロジェクトに関連する意見もいただいたので、それを踏まえて作成し、次回にお示しできるようにする。

(会長)

- 次回の審議会において、重点プロジェクトと、本日いただいた意見に対し市から回答があるようであればそれを示すという形で次回の会議を持ちたいと思う。

3. その他

(事務局)

- 次回の会議は、来週12月2日(火)、9時15分から市役所本庁舎3階大会議室で開催する。
- 議事録の作成公表については、これまでと同様の対応とさせていただきたい。
- 長時間にわたり熱心にご議論いただきありがとうございました。これをもって第6回亀山市総合計画審議会を閉会させていただく。

以上